

## 「葦」第37号発刊によせて

教育委員長 堀 口 陽 子

平成17年は、「看護実践能力の向上に向けて個人のキャリア発達を支援する」を目的に、教育計画の企画・運営、クリニカルラダー導入に向けての準備をすすめてまいりました。

それまで看護副部長主導で行っていた段階別教育を、教育委員会において企画・運営した初めての年度でした。年間を通して多くの研修を担当し、特に5月から6月にかけての新採用者研修やメンバー研修の時期は、多忙を極めました。毎月2回の委員会開催でしたが、委員会の時間では企画に費やす時間がなく、ほとんどの担当者が時間外で企画や準備を行い実施しました。そのため、研修を受ける皆様方に満足いく研修ができたか不安も感じる日々でした。また、プリセプター研修や看護研究発表会などの段階別教育を主任に担当していただくことで、主任の成長につながったのではないかとうれしく思っています。担当していただいた主任も、日々の病棟や外来業務で忙しい中、私的な時間を割き企画・運営していただいたことと思います。本当に感謝しています。

今まで、外部講師や副部長に任せ頼っていた研修を、一部ではありますが教育委員・主任会で実施できたことは、私たちの所属スタッフを私たち自身で育てるという基盤作りにつながったのではないかと考えています。後輩を育てることで、様々な研修を実施している私たち自身が育てられていると実感できました。

クリニカルラダー導入に向けては、様々な文献や資料を参考に手探りの状態ですすめました。看護の理念や方針を遂行するためには、組織化された教育プログラムが必要となります。看護師一人一人の臨床実践能力を評価できるシステムを構築するという看護部長の指導のもと、ベナーの臨床看護実践能力習熟レベルを基盤に教育委員会で学習を進めました。ラダー作成の課程では、一つの言葉でも様々なとらえ方があり、言葉の概念規程に時間を要しました。できあがったクリニカルラダーは十分な内容ではありませんが、各所属で評価して頂き、奈良県立医科大学附属病院の看護理念にそったよりよい内容に修正していきたいと考えています。

最後になりましたが、教育委員会活動にご協力頂いた皆様に深く感謝いたします。